2022年新春 国会報告 NO.13

近畿、全国のみなさん、いつも応援ありがとうございます。

まじめに生きる人々に、希望と勇気がわいてくる政治をめざして、今年も力いっぱいがんばります。

日本共産党にとって政権への初挑戦となった総選挙の教訓を生かし、7月の参議院選挙で躍進するために奮闘いたします。引き続いてのご支援を心よりお願い申し上げます。

新しい国会報告をお届けします。ご覧いただけたら幸いです。

山下よしき

（写真上）参院予算委員会で、シフト制労働者の権利を守るルールをと迫る（2021年3月19日）
（写真右）深刻化するコロナ感染で、大阪への医療者派遣などを、厚労省の担当者に緊急要請（2021年4月16日）

山下よしき 2021年（204国会） 質問一覧

3月16日 環境委	「ゼロエミ火力」は石炭火力延命で、2030年CO2大幅削減に逆行すると批判
3月19日 予算委	新型コロナで大規模検査要求。シフト労働者の実態示し、理不尽正す新しいルールを作れと迫る
4月6日 環境委	神鋼石炭火発アセスでの環境大臣意見が、住民の健康より事業を優先し後退させられた問題を告発
4月8日 環境委	瀬戸内海の人工干潟の問題点を指摘。藻場干潟の保全求め、赤潮の被害を二度ともたらすなと指摘
4月15日 環境委	福島汚染水放出は約束ほごだと撤回迫る。神鋼石炭火発アセスの事業者との事前調整を追及
4月22日 環境委	神戸六甲山開発計画の実態示し、自然公園法の規制緩和で、自然・生態系の破壊招きかねないと指摘
4月23日 議運委	西村担当相（当時）のコロナ流行は何度も起こるとの発言に、感染封じ込めこそ政治の責任と迫る
5月7日 本会議	医療崩壊の大阪に国の医師派遣はゼロだと追及。石炭火力増設やめ、先進国の責任果たせと迫る
5月17日 決算委	かんぽ不正販売で、現場を不正に駆り立てた組織ぐるみの実態を告発し監督責任を迫る
5月18日 環境委	温暖化対策法質疑で、参考人全員が原発と石炭火発に反対し、ゼロエミ火力やCO2貯留を批判
5月19日 憲法審査	国民は改憲議論など求めていない。コロナ危機に乗じた「安倍改憲」推進は許されないと主張
5月20日 環境委	電力業界任せで、石炭火力建設が続く実態を告発。CO2削減のため全廃への政治決断を求める
5月25日 環境委	G7で石炭火力全廃に背を向ける政府を批判。『高効率』とごまかしての国外支援は停止せよと迫る
5月27日 環境委	奈良県平群町メガソーラーなどの再エネ開発の指導要求。住民合意のルールが必要と迫る
6月1日 環境委	マイクロプラスチックの魚や人間への深刻な影響を指摘。「地球に残すな」と抜本対策を迫る
6月3日 環境委	プラ製品による海洋汚染を止めるため、ペットボトルのなどの膨大な生産量自体を減らす対策を迫る
6月8日 環境委	大阪府摂津市のダイキンによる「PFOA」汚染の調査と対策を要求。消極的な環境相を批判

コロナ

「新型コロナウイルスを封じ込めるために大規模検査を本気でやることが大事だ」

山下議員は、①高齢者施設などでの社会的検査、②無症状者へのモニタリング検査、③変異株検査――の拡充を提案。菅首相（当時）は「方向性はほぼ一緒だ」と答弁しました。（3月19日予算委）

予算委員会で提案（3月19日）

憲法

世論調査で、政権に期待するテーマとして「改憲」と答える人は数%にすぎません。山下議員は、憲法審査会で「不要不急の改憲議論でなく、コロナから目の前の命を守るために必要な対策を打つことこそ国会の使命だ」と意見表明しました。（5月19日）

憲法審査会で意見表明（5月19日）

かんぽ

元郵政職員の手紙を受け「過酷なノルマ」「どう喝的研修」など行き過ぎた成績主義が職場を支配する中で、かんぽ生命の不正販売が広がった実態を告発。「組織ぐるみの不正が行われたことへの反省を踏まえた出直しが必要だ」とただしました。（5月17日決算委）

原発

東京電力柏崎刈羽原発での不正侵入防止の不備について「収益力を上げるために再稼働を急ぐ姿勢が今回の重大事態を生んだのではないか」と指摘。菅首相（当時）は「東電の組織の体質や原発を扱う資格にまで疑念をもたれてもやむを得ない」と答弁（3月19日予算委）。また、福島での汚染水放出は、原発事故に長年苦しめられてきた漁業者との約束をほごにするものであり撤回すべきだと迫りました（4月15日環境委）。

沖縄に学ぶ　山下よしき

「インターネットで『立憲共産党』なんて揶揄したタグが多い。歴史の長い政党に対して失礼だ。『共産立憲党』でいいぐらいだと私は思う。それぐらい、立憲民主党もがんばって、沖縄の声を届けるようがんばります」。総選挙最終日、日本共産党・赤嶺候補の必勝決起集会で、立憲民主党県連代表代行がこんなスピーチをしてくれました。感動しました。沖縄では「オール沖縄」の各政党が、肩を並べて訴え、お互いをリスペクトしあい、共闘への攻撃をそれぞれの言葉で反撃していました。沖縄のような共闘が全国に広がれば、政権交代をグンと引き寄せることができるのではないでしょうか。

あかみね必勝決起集会（10月30日沖縄）

日本共産党 副委員長・参議院議員

山下よしき

【国会事務所】〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館1123号
TEL:03-6550-1123 FAX:03-6551-1123

【近畿ブロック事務所】〒537-0025
大阪市東成区中道1-10-10 ホクシンピース森ノ宮102号
TEL:06-6975-9111 FAX:06-6975-9115

日本共産党 参議院議員 山下よしき
ホームページ:
https://www.yamashita-yoshiki.jp/
@jcpyamashita

気候危機

「世界がこのまま変わらないんだったら二人目の子どもは絶対産まない」――気候危機問題にとりくむ若い世代の声を本会議の檀上で代弁。「日本も50%以上の削減を目標にすえ、先進国としての責任を果たすべき」と追及。「原発頼みではなく、再生可能エネルギーの飛躍的普及と省エネで脱炭素を促進すべき」と迫りました。
(5月7日本会議)

参院本会議で質問
(5月7日)

石炭火力

CO2 を出さない「ゼロエミッション火力」になるとして石炭火発の新設が進められています。山下議員は「ゼロエミ火力は技術的に未確立であり石炭火力延命に他ならない。CO2削減目標達成には石炭火力全廃しかない」と批判し、廃止計画の作成を求めました。
(3月16日環境委)

環境委員会で追及(3月16日)

神鋼アセス

神戸製鋼石炭火力の環境アセスに対する環境相意見では、「人口密集地」「CO2が年380万トン増加」など重要な記述が経産省の圧力で削除された。一方、削除されなかった部分は「事業者は納得」と経産省の記録にある――驚くべきアセスの実態を告発し「事前に事業者に見せているのか」とただした山下議員。経産省審議官は「見ていただいている」と認めました。住民の健康より事業者を優先するやり方は許されません。
(4月6日、15日環境委)

再エネ施設

「再生可能エネルギーの飛躍的普及には、住民の納得と合意の得られるルールが必要だ」と奈良県平群町メガソーラーなどのトラブル事例を示して提案。小泉環境相(当時)は「再エネへのイメージ悪化に危機感を持っている」と答弁しました。(5月27日環境委)

環境

PFOA

低体重児などとの関連が指摘されている有機フッ素化合物「PFOA」。大阪府摂津市ではダイキン工業からの排出による地下水汚染が全国一高く、土壌も汚染され、農作物を食べた住民の血液から高濃度の「PFOA」が検出されています。山下議員は「子どもが通う小学校の汚染状況が心配」という保護者の声を紹介。「直ちに土壌調査と住民の血液検査を行い、対策を打つべきだ」と追及。小泉環境相(当時)の消極的な答弁に「水俣やアスベストのような不作為をくりかえしてはならない」と批判しました。(6月8日環境委)

プラゴミ

マイクロプラスチック(MP)の魚や人間への深刻な影響が指摘されています。山下議員は「全てのプラスチックは、紫外線によって微細化しMPになる。ペットボトルは9割が回収されているが、生産量が膨大なため、年約25億本が環境中に流出している」と告発し「プラスチック自体を減らす抜本的対策が必要だ」と迫りました。
(6月1日、3日環境委)

大量に流出したペットボトル

気候危機で若者たちと懇談(4月30日)

よしきsPhoto

コロナ急拡大を受け「本気の検査・対策を大阪で」とたつみ氏らと訴え(4月16日大阪)

新型コロナで「大阪医療、一刻争う」と厚労省に支援策要請(5月7日)

豊かな教育環境をつくろうと、障害児学校学習会で講演(7月18日滋賀)

2021年 活動報告

シフト制労働

山下議員は、コロナ禍でうきぼりとなったシフト制労働の問題について3月19日の予算委員会で質問。当事者への聞き取りをもとに、人間らしい雇用のルールを求めました。

シフト制の理不尽告発

シフト制労働者は職場で重要な役割を果たしています(図・上)。ところが、休業手当が出ないなど、数々の理不尽がまかり通っています(図・中)。山下議員は「労働者としての権利の侵害だ」と指摘しました。

これに対し田村厚労相(当時)は「シフト制にもいろいろある。そういう働き方を望んでいる人もいる」などと答弁。山下議員は「こんな理不尽を労働者が『望んだ』などと厚労相が言うのか。それでは労働者は救われない」と厳しく批判しました。

シフト制労働者守るルールを

その上で、観光バス大手の3人の労働者は、コロナ禍の影響が広がっていた2020年3月の雇用契約書で、「勤務日数・労働時間」が大きく切り下げられたと告発(図・下)。「使用者が勤務日数や労働時間を都合よく決めることができ、『0』にもできる。解雇時の事前通知や予告手当も不要になる。労働者保護のルールがことごとく突き崩される」と批判。「コロナ禍でシフト制の悪用が広がっている。乱用を防ぐ新しいルールが必要だ」と強調しました。

山下議員は、欧州連合(EU)が2019年、シフト制労働者の賃金を保証する「最低限の労働時間数」などを定めた「指令」を成立させたと指摘。「日本でも理不尽を希望に変えるルールをつくるべきだ」と迫りました。厚労相は「各国の対応を注視・検討したい」と答弁しました。

山下議員は、根本には自民党政治による労働法制の緩和があると指摘。「働く貧困層が増えるほど、大企業の内部留保が増える。こんなゆがんだ社会を変えるためにも、人間らしい雇用のルールが必要だ」と強調しました。

労働者の声が政治動かす

さらに、山下議員は、シフト制労働者が、仕事が減り、退職を余儀なくされても、「自己都合退職」扱いで失業給付まで2カ月待たされる点を「生活できない。救済の道をつくるべきだ」と追及。

その後、厚労省は、コロナの影響によるシフト減で離職した場合、すぐに失業給付を支給する基準を作成。シフト制労働者の声が政治を動かしました。

シフト制労働者は重要な役割を担っている

飲食大手 シフト制 Aさん(30代・女性)
主にホールで接客の仕事。店舗は店長以外全員シフト制。
クレーム対応、調理補助、新人アルバイトの教育も担当。
入居しているビルの店長会への出席、衛生検査の対応など店長不在時に店長としての役割も担う。

イベント警備 シフト制 Bさん(40代・男性)
大規模イベント会場の担当エリアで50~100人のスタッフを管理。
スペイン語に堪能で海外サッカー選手の通訳をすることも。
シフトが減る前は、月収25~29万円ほどあった。

観光バス大手 シフト制 Cさん(女性)
仕事はバスガイド。もともと正社員だったが、出産により退職。その後、非正規雇用で復職。
週5日、50時間以上働いていた。1日で昼コース、夜コースの2回乗車し、14時間くらい働くことも。

シフト制労働者の働き方には数々の理不尽が

① シフトが減らされて、休んでいるのに、休業手当が出ない。
② 直前までシフトが確定せず、先の予定が入れられない。
③ 確定していたシフトが急に取り消しになっても、補償がない。
④ シフトが減らされ、生活が苦しくなって退職しても「自己都合」に。

観光バス大手のシフト制労働者の「雇用契約書」

「勤務日数・労働時間」

Cさん	2019年9月の契約書 週5日 週40時間 *勤務シフトよる	2020年3月の契約書 週3日 週24時間 *勤務シフトよる
Dさん	2019年9月の契約書 週2日 週16時間 *勤務シフトよる	2020年3月の契約書 勤務シフトによる
Eさん	2020年3月の契約書 週3~5日 週20~40時間	2020年9月の契約書 週0~3日 週20時間未満

「比例での躍進を今までの何倍も訴え抜こう」と奈良の決起集会で訴え(10月15日)

「政権交代の最大の推進力、日本共産党の躍進を」と和歌山・紀の川市で訴え(10月16日)

「共闘強めて政治前進を」と兵庫でこむら候補と訴え(10月24日)